

目指す学校像	●学ぶことの大切さ・喜びを味わえる学校 ●豊かな心・健やかな体を育成する学校 ●あいさつを大切にしている学校 ●地域とともにある学校
--------	---

重点目標	1 市スマートスクールプロジェクト(SSSP)が目指す教育の実現に向け、「学びの改革」「教え方改革」「働き方改革」を推進する。 2 校内教育支援センター「Sola(ソラ)る一む」の充実を図る等、誰一人取り残さない多様な学びを支える環境づくりを目指す。 3 学校運営協議会を通して、地域と学校の連携をより深める取組を模索し、新たな制度を創設する。 4 教職員一人ひとりの指導力を向上させるよう校内研修を充実する。
------	--

※重点目標は4つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目は複数設定可。
※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成	(8割以上)
	B	概ね達成	(6割以上)
	C	変化の兆し	(4割以上)
	D	不十分	(4割未満)

年度		学校自己評価				年度評価		学校運営協議会による評価	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	学校運営協議会からの意見・要望・評価等
1	<p><現状> ○スクールダッシュボードが本年度から本格運用される。 ○本年度から授業改善の観点で、「よい授業」から「学びの指標」に変更された。 <課題> ○スクールダッシュボードが円滑に運用できるよう、日課や実施方法について検討したり、効果的な活用方策を検証したりする必要がある。 ○生徒は授業を落ち着いて受けているが、知識の定着度や理解度が個人差があるため、各教科において基礎・基本の確実な定着を図り、学びに向かう力を高める必要がある。</p>	<p>○基礎学力の向上 ○学びのポイント「じ・し・ゃ・く」を意識した授業の実践</p>	<p>○平素の授業や家庭学習で、タブレット等を活用してスタディサプリやドリルパーク等に取り組み、個別最適な学びにより基礎学力の向上を図る。 ○スクールダッシュボードについて、本校における活用シーンやデータ取得等のユースケースを検討する。 ○タブレットを活用し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に取り組む。 ○新たな学びの指標を意識した授業を展開し、個別最適な学び、協働的な学びの一体的な充実を図る。</p>	<p>○学びの指標の「先生が、基本的な内容をわかりやすく教えてくれる」の平均が3.5以上(R5は3.4) ○学校評価保護者アンケート「お子様は、授業を分かりやすいと感じていますか?」の肯定的な評価が73%以上(R5は70%)</p>	<p>○学びの指標の「先生が、基本的な内容をわかりやすく教えてくれる」の平均が3.5だった。(R5は3.4) ○スタディサプリについて、リクルートに依頼して、6月以降全ての市立中学校に毎月の「利用状況報告」を送付していただき、校内研修会等で活用の活性化を図った。 ○学校評価保護者アンケート「お子様は、授業を分かりやすいと感じていますか?」の肯定的な評価が73.1%だった。(R5は70%)</p>	A	<p>○スクールダッシュボードについて、引き続き本校における活用シーンやデータ取得等のユースケースを検討する。 ○「年間授業日数 205 日以上」の規定が撤廃されることを受け、教育課程を見直して、授業時数を確保する。 ○引き続き、学力の底上げを図るため、各教科において基礎・基本の確実な定着を図り、学びに向かう力を高める必要がある。</p>	<p>○本校の先生方は、生徒たちとの距離が近くてフレンドリーだと感じる。 ○新しい教え方の利便性を生かした結果が表れている。 ○部活動の地域移行が少しずつ進み始めているようだ。また、顧問の先生の負担等によって活動状況に差がある。 ○学びの指標の数値が上昇しており、教え方改革が着実に推進されている。</p>	
2	<p><現状> ○全国学力・学習状況調査において、「学校に行くのは楽しい」「困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合が、全国及び埼玉県平均を上回っている。 ○教育相談主任を中心に、さわやか相談室の利用等について、計画的で系統的な運営方針を教職員に周知して教育相談に取り組んでいる。 <課題> ○年間 15 日以上欠席している生徒は 13.0%(R6.1)、「心と生活のアンケート」(令和5年度第3回)における面談対象者は、10.1%が該当している。 ○形式化・画一化された対応ではなく、個別かつ、それぞれの特性や環境に応じた柔軟で包括的な支援の実現が求められる。</p>	<p>○Sola(ソラ)る一むの充実を図る ○個別の・包括的な生徒理解と支援の実現のためのアセスメントとPDCA サイクルに基づいた計画的な教育相談活動</p>	<p>○教諭・さわ相・養護教諭・SC・SSW・SA等が生徒の情報を共有し、生徒理解に向け連携・協働する。 ○3類4層構造の教育相談を実践する体制を強固にする。 ○支援者である教職員一人ひとりの教育相談活動に関する知識・技術・態度それぞれについての改善・向上を目指す、市教委等の校外から専門性を有する講師を招いた研修等を行う。 ○生徒自身の自己実現や援助希求能力の育成のための、他職種・各分掌と連携した道徳やいのちの支え合いを学ぶ授業等の実施</p>	<p>○スクールダッシュボードの心の天気アンケート等のライフ・ログを活用して、生徒のリアルタイムな実態を把握できたか。 ○一元的な情報の管理と、積極的な情報共有に基づいた機動性の高い協働的な組織によりSola(ソラ)る一むを運営できたか。 ○他職種・各分掌と連携した道徳やいのちの支え合いを学ぶ授業等を実施することができたか。</p>	<p>○スクールダッシュボードの心の天気アンケート等のライフ・ログを各担任が毎日確認することで、生徒のリアルタイムな実態を把握できた。 ○一元的な情報の管理と、積極的な情報共有に基づいた機動性の高い協働的な組織によりSola(ソラ)る一むを運営できた。 ○夏季休業中に市教委から講師を招き、教育相談(子どもの面接や保護者への関わり方、市の教育相談体制)や、特別支援教育(ユニバーサルデザインや個に応じた支援と合理的配慮)などを学ぶ校内研修を実施した。 ○1、2年生の「いのちの支え合いを学ぶ授業」で、さわ相やSCや養護教諭がT2となりを実施した。</p>	B	<p>○年間 15 日以上欠席している生徒は 13.1%(R7.1)、「心と生活のアンケート」(R7.1 実施)における面談対象者は 7.5%が該当している。 ○引き続き、形式化・画一化された対応ではなく、個別かつ、それぞれの特性や環境に応じた柔軟で包括的な支援の実現が求められる。 ○不安定な生徒が多い傾向にあることから、生徒の実態に応じて、教育相談や特別支援教育に係る適切な校内研修等を実施する。 ○不安定な生徒を多角的多面的に支えるため、継続して多職種・各分掌との連携を重視しながら支援体制を整える。</p>	<p>○生徒たちにとって、居場所があることや自己肯定感を高めること等が大切である。 ○本校のSola(ソラ)る一むは、スキルの高い担当者により充実した運営ができています。 ○学校は勉強だけでなく、社会人としての常識を学ぶ場でもあるので、生徒一人ひとりの成長段階に応じて学ばせると良い。 ○学校によって学習環境や指導内容が様々だが、生徒が通いやすい環境づくりが大切だと思ふ。</p>	
3	<p><現状> ○学校運営協議会では、地域の力を生かしてコミスクの更なる充実に向け検討してきた。 ○With コロナを見据えた地域の様々な行事が実施される予定である。 <課題> ○全国学力・学習状況調査において、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いませんか」の質問に肯定的な回答をした生徒の割合が、全国及び埼玉県平均を下回っている。 ○部活動の地域移行に向け本校に関わる課題を精査し、学校運営協議会等の場で地域の声を取り入れながら今後について話し合う必要がある。</p>	<p>○生徒や教職員による地域の行事等への積極的な参加 ○学校運営協議会で、地域と学校の連携を深める新たな制度を創設 ○学校行事に保護者が参加する機会の増加</p>	<p>○地域の自治会等と連携を図り、地域で行われるさまざまな催し物について、生徒や教職員が積極的に参加できるよう、計画を立てて実施する。 ○学校運営協議会で、地域と学校の連携をより深める取組や新たな制度を創設するために熟議して、実施に向けた課題を精査する。 ○Withコロナを踏まえ、本校で実施される学校行事に多くの保護者が参観したり参加したりすることができるよう、各行事の計画を立てて実施する。</p>	<p>○「ふらばーるバレー」や「ふれあいフェスティバル」等の地域主催の行事に、教職員や生徒が参加できたか。 ○地域と学校の連携をより深める取組や新たな制度を創設し、実施することができたか。 ○土曜授業や学校行事(体育祭や合唱コンクール等)に保護者が参観したり、参加したりする機会を設けることができたか。</p>	<p>○7/20「PTA 見沼区連合会ふらばーるバレー大会」と、その練習会に 11 名の教員が参加した。また、10/20「ななさと親子フェスティバル」、11/17「はるおかふれあいフェスティバル」に、4つの文化部が参加した。 ○第1,2回の学校運営協議会で、地域と学校の連携を深める新たな取組と制度について熟議を行い、新たな取組として、地元住民の有志からなる「春里中学校お助け隊」を創設した。 ○4/27,8/31,1/11 に土曜授業を実施した。体育祭及び合唱コンクール等で保護者に参観いただいた。学校運営協議会や民生委員との懇談会でも授業の様子を公開した。</p>	B	<p>○With コロナが定着し地域で行われるさまざまな催し物が更に活性化すること、生徒や教職員が積極的に参加できるよう、計画を立てて実施する。 ○今後「春里中学校お助け隊」の活動を具体的に実施する。揮毫や草刈りなどが必要になった際、都度お助け隊の中からボランティアを募り助力いただく。 ○PTA が主催する給食試食会で学校公開を定着させる。また、学校運営協議会等で地域の方々に生徒と共に教室で給食を試食していただく。</p>	<p>○地域のイベントに多くの生徒が発表や運営に参加することにより、地域との交流の場として期待できる。 ○「春里中学校お助け隊」を更に発展し、小・中学校で連携できると良い。 ○「春里中学校お助け隊」の登録数がまだ少ないにも関わらず、一度目の活動が実施されたことを周知できれば、更に活動が活発化される。</p>	
4	<p><現状> ○タブレット等を用いた授業の在り方やICTの活用方法について、エバンジェリストが中心となって校内研修を重ねてきた。 ○Canvaを用いた資料を作成したり、Teamsを活用して様々な場面でオンラインを活用したりする教員が増えるなど、スキル向上が見られた。 <課題> ○スクールダッシュボードを活用して、一元的に見られるようになる多様なデータを基に、エビデンスベースの指導やデジタルの優位性の活用による個別最適な学びと協働的な学びを実践できるよう校内研修を実施する必要がある。</p>	<p>○教職員のICT教育に係る授業改善 ○スクールダッシュボードの円滑な運用</p>	<p>○全国教員研修プラットフォームや人事評価面談の機会を利用して教職員に研修受講を奨励する。 ○教職員が夏季休業中等に実施される教育研究所の希望研修や、他校の授業研究会に参加したり、スタディサプリやミライシードのオンライン研修会に参加したりして、授業力の向上を図る。 ○エバンジェリスト等による「春里PCカフェ」を実施し、ICT(Canvaやミライシードやスタディサプリ等)を活用した効果的な授業や、学校ホームページの更新方法等に関するスキルを高める。</p>	<p>○80%以上の教職員が、スタディサプリやミライシードを活用した授業改善を行ったり、「春里PCカフェ」に参加したりして、新たな指導方法等で授業を実践したか。 ○教員が、担当する部活動や専門委員会に関して、学校ホームページを最新の状態に更新しているか。 ○スクールダッシュボードについて、活用シーンやデータ取得等のユースケースを検討し、実践することができたか。</p>	<p>○6/24と7/29の全ての教員を対象に行った校内研修会で、スタディサプリを活用した授業改善研修を行った ○夏季休業中にすべてのエバンジェリストが「春里PCカフェ」を計5回実施し、延べ20名程度(おおむね50%)の教職員が研修を受講した。 ○学校ホームページの専門委員会と部活動のページの更新方法について、夏季休業前に周知を図り、教員が互いに教え合いながら最新の状態に更新した。 ○スクールダッシュボードの円滑運用のため、企画委員会等で、日課や実施方法について検討を重ね、新たな体制を作った。</p>	B	<p>○スクールダッシュボードの効果的な活用を目指し、企画委員会等で、「未来くるタイム」での学習の振り返りの定着を図る。 ○スタディサプリの活用状況(アクティブラーニング)や教職員のログイン率を向上させることで、生徒の基礎学力の向上を目指す。 ○夏季休業中にすべてのエバンジェリストが「春里PCカフェ」を計5回以上実施し、更なる教職員が研修の充実を図る。</p>	<p>○校内研修の充実により、教職員の負担がさらに増えることが危惧される。 ○本校の教職員は、幅広い年齢層がある中で、同程度のICT技術を保っていることが素晴らしいと感じた。 ○「未来くるタイム」や「春里PCカフェ」など、教職員が積極的に研修している様子がうかがえる。 ○教職員が悩みを抱えたり孤立したりしないよう、学校全体で対応する必要がある。</p>	

